

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、支援を要する生徒に対する理解を深める。 ②ケース会議を誰もができるように研修を行い、職員との理解と個々のスキルアップを図る。	全体でのケース会議の研修は有意義な時間であった。また、一般級と個別支援級の垣根が低くなってきていて、個に応じた支援の重要性が必要な中、職員の知識の向上が急務であり、今後、より正しい理解につながる研修などを継続していく必要がある。	A
豊かな心	①生徒の実態をもとに、教科書や道徳教材を計画的かつ有効に活用し、積極的に道徳教育に取り組む。②校内で気持ちの良い挨拶ができるよう、生徒会を中心に「瀬谷中挨拶運動」を展開する。③道徳教育の研修会を年間1回実施し、授業づくり、授業実践に活かす。	・教材に関してしっかりと熟考させ、自らの立場で考えが出せるような道徳の授業をしていきたい。 ・形だけのあいさつ運動にならないようにするためにも、教員の意識を変えていく必要がある。	A
生徒指導	①職員の連携を密にし共通理解を深める。 ②日頃から挨拶や声かけを行うなど、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導に取り組む。 ③委員会活動のより充実した取り組みを支援し、積極的に人との関わりをもととする心を育成する。	・生徒の日常の変化や指導に関して、学年間でしっかりと情報共有し、チームで対策を考えていくことが重要である。また、大規模校であるので、職員間の連携、共通理解には工夫を要する。今後は、事後でなく予防の視点で取り組みたい。	A
健やかな体	①運動や健康に関心を持ち、運動が習慣化するよう、体育祭や球技大会を組織的に運営し、体力向上に取り組む。②健康・安全について考え、健康教育(教科・保健指導・委員会活動等)を計画的に行い学ぶ機会の充実を図る。③健康な心身の育成のため、家庭と連携するため、通知や健康相談を行う。	・体育的行事では、一人ひとりが真剣に学級のために取り組めるよう、指導することができた。今後は、熱中症予防の視点もあわせて、各活動を安全に行っていけるよう指導していきたい。	A
生徒活動の充実	①月1回評議会を行い、生徒会本部を中心に学校をより良くするために話し合いを行う。 ②評議会が出た諸問題の解決を各生徒委員会が協力し、横断的に取り組む。	・評議会での議題を事前に連絡し、会議の活性化と円滑な話し合いになるように心がけて指導を行った。 ・学年や学級の問題を全体で考え、改善策を提案・実施ができるよう、クラス会議を増やし、生徒が自分たちで考える機会を与えていく。	A
学力向上	①学習状況調査の結果を用いて研修会を行い、生徒の姿を明確にし、わかりやすい授業、適切な支援ができるようにする。 ②定期的に学習会や補習を開き、授業の進め方やつづきのある生徒への支援を行う。	・知識を活用する問いを日々の授業から提示し、考える習慣、自らの力で問題解決していく力を身に付けさせて、生徒の学習を深いものにした。また、補習や居残りでの学習の対応を行った。今後は、職員の授業研究をさらに充実させるべく、改善が必要である。	B
地域連携・学校運営協議会	①来年度からの小中ブロックでの組織づくり(地域学校協働活動推進員の運営等)の準備を行う。 ②生徒と地域住民との懇談会開催や福祉の仕事体験受け入れ先拡充のために協力を仰ぐ。	・職場体験の依頼先の拡充を図った。一方で、地域の催しなどにはあまり参加できていない。これからの課題だと思われる。	B
いじめへの対応	①生徒指導部と連携した教育相談や生活アンケートにより細かな変化を見逃さない体制をつくる。 ②週1回いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。	・学校生活アンケートによる対応や日常の生徒との会話などでアンテナを広げ、生活全般において留意し、また、定期的に生徒と話す機会を設け、意見を聞き支援していくことができた。今後も安全、安心を生み出すための攻めの取組を前面に出していきたい。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら月1回程度の自主研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。②校務分掌の中心となる役割をミドルリーダーに任せ、教師力の向上を目指す。③働き方改革の視点から、時間外の地域行事の精選や会議等のスリム化を図る。	・行事などさまざまな場面でメンターチームの組織を活用して、生徒活動に役立てることができた。 ・働き方改革については、時間外の地域行事を減らした。しかし、業務のスリム化はまだ改善の余地がある。	B
ブロック内評価後の気付き	・ブロック全体で、「9年間で育てる子ども像」を共有し、その実践に向けたカリキュラム作りを計画的に進めることができた。また、ブロックでの授業研究会でも「9年間で育てる子ども像」を意識した授業実践を各教科で実践できた。 ・小中合同引渡訓練については、各学校の授業時間や訓練の開始時刻を調整し、スムーズに児童生徒の引き渡しできた。 ・職場体験の実施を11月に変更し、インフルエンザ等の心配をすることなく、体験を行うことができた。		
学校関係者評価	・授業の様子も落ち着いており、体育祭や合唱コンクールといった行事に取り組んでいる姿も前向きで、年々学校がよくなっているように感じる。 ・「ふれあい音楽会」は、地域の幼稚園から高校までのつながりを感じるもので、地域としても楽しみにしている。 ・学区が広く、バス、自転車を利用している生徒もいる。地域住民と関わる場でもあるので、マナー、エチケットの指導が必要である。		
中期取組目標振り返り	・職員組織を改編したことで、新たな学校経営中期取組目標、重点取組分野の目標の実現に向けて、職員の参画意識が向上した。 ・特別支援教育においては、組織的、計画的に支援を必要とする生徒に対し、取り出し授業などの学習支援を行うことができた。来年度は、登校支援教室を設置し、不登校生徒に対する支援も行うことにした。 ・職員研修の講師を務めさせるなど、ミドルリーダーの指導のもと、若手職員の育成ができた。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、支援を要する生徒に対する理解を深める。 ②ケース会議を誰もができるように研修を行い、職員の理解と個々のスキルアップを図る。③特別支援教室の有効的な活用を図る。④ユニバーサルデザイン化をすすめる。		
豊かな心	①生徒の実態をもとに、教科書や道徳教材を計画的かつ有効に活用し、積極的に道徳教育に取り組む。②道徳教育の研修会を年間1回実施し、授業づくり、授業実践に活かす。③道徳の授業を学年職員でローテーションを組み、実践する。		
生徒指導	①学年間、職員間の連携を深める。②日頃から挨拶や声かけを行うなど、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導に取り組む。③委員会活動のより充実した取り組みを支援し、積極的に人との関わりをもととする心を育成する。		
健やかな体	①運動や健康に関心を持ち、運動が習慣化するよう、体育祭や球技大会を組織的に運営し、体力向上に取り組む。②健康教育(教科・保健指導・委員会活動等)を計画的に行い、健康・安全について考え、学ぶ機会の充実を図る。③健康な心身の育成のため、家庭と連携するため、通知や健康相談を行う。		
生徒活動の充実	①生徒会本部を中心に、学校をより良くするために、月1回評議会、常任委員会を行い、話し合いを行う。②評議会が出た諸問題の解決を各常任委員会が協力し、横断的に取り組む。		
学力向上	①学習状況調査の結果を研修会で分析し、生徒の姿を明確にし、わかりやすい授業と適切な支援ができるようにする。②定期的に学習会や補習授業を行い、つづきのある生徒への支援を行う。		
地域連携・学校運営協議会	①新たにスタートする小中ブロック学校運営協議会の活動を確立する。②生徒と地域住民との懇談会開催や福祉の仕事体験受け入れ先拡充のために協力を仰ぐ。		
	b8		
いじめへの対応	①生徒指導部と連携し、教育相談や生活アンケートを実施し、生徒の細かな変化を見逃さない体制をつくる。②週1回いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら月1回程度の自主研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。②校務分掌の中心となる役割をミドルリーダーに任せ、教師力の向上を目指す。③働き方改革の視点から、時間外の地域行事の精選や会議等のスリム化を図る。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
特別支援教育	c1		
豊かな心	c2		
生徒指導	c3		
健やかな体	c4		
生徒活動の充実	c5		
学力向上	c6		
地域連携・学校運営協議会	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			